接点付圧力計取扱い説明書

(取付)

①取扱いはスイッチ破損の原因となりますので大きなショックは与えないで下さい。
②取付場所は機械的振動、腐食性ガス等を避けて下さい。
③ケース本体部分を持って締め付けないで必ずスパナ掛けを利用して下さい。
④壁掛型(B型)や埋め込み型(D型)の圧力配管は計器に無理をかけないようにフレキシブルなものを用いて下さい。

(測定流体)

①脈動がある場合は、ダンプナーを併用して下さい。
脈動を直接スイッチに導入して使用するとスイッチの寿命を短縮しスイッチの誤差の原因となりますので注意して下さい。
②高温の場合は、サイホンを利用し常温にして計器に導入して下さい。
③測定体が何であるか、水・油・空気などの一般であるか又は科学薬品など腐食性流体であるかどうか。

(無気定格及結線)

①電気結線は定格を考慮しリード線は負荷容量にあったケーブルを用います。
②負荷の定格がスイッチの定格を超えないように充分注意して回路を決めます。
③特に突入電流の持続時間の長いもの(コイル負荷)では充分低いところで使います。
④定格オーバーは寿命短縮と事故の原因となりますので注意して下さい。
⑤アース端子は特に設けてありませんが必要な場合はボデーアースとします。
⑥負荷は何を接続するか、ランプ・ブザー・モーター等の電気定格はどのくらいか作動回数を考慮して設定して下さい。
⑦内部結線は絶縁性・耐熱性に耐えるkv0.5被覆性を用いています。
⑧外部結線には負荷の定格にあったキャップタイヤケーブルを用い、末端処理には圧着端子を用いてしっかりと結線・アース端子も忘れずにして下さい。

(設定)

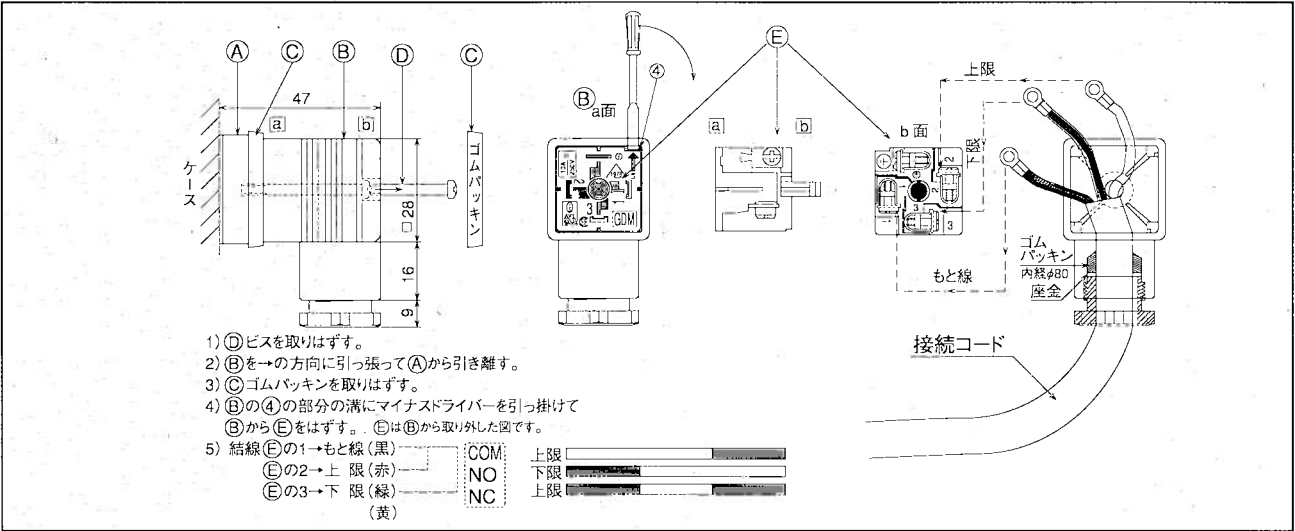
①接点作動位置の調整はカバーを外して(外部調整式の場合はツマミ又はドライバーで)設定目盛に合わせます。
②上限式の場合は圧力の高いほうから、下限式の場合は圧力の低いほうから、上下限式の場合は圧力の高いほうと圧力の低いほうから希望接点に合わせます。
③設定指針とツマミの回転方向は同方向なので注意して下さい。
④コンタクト接点の場合、上限接点及び下限接点、作動後は示度の誤差が大きくなります。

(運転保守)

①運転を始める場合、ゲージ・バルブ・コック等は急激に開かずに徐々に開くようにして下さい。
②6ヶ月に一度くらいは運転を止めて各部に異常がないかどうか、特にスイッチの作動状況をチェックして下さい。
③取扱責任者以外は手に触れないように注意して下さい。。

接点付圧力計総合仕様書／端子BOX取扱説明書

		マイクロスイッチ（φ100用）	コンタクト接点式
精　度	示度精度	フルスケールの±1.6%以内	フルスケールの±1.6%以内
	設定精度	フルスケールの±1.6%以内	フルスケールの±1.6%以内
	再 現 性	フルスケールの±1.0%以内	フルスケールの±1.0%以内
	接 断 差	0.6MPa迄:15%以内 1MPa以上:10%以内	フルスケールの±1.0%以内
電 気 的 特　性	定　格	DC 24V 4A	DC 24V 0.08A
		AC 100V 5A	AC 100V 0.4A
		AC 200V 3A	AC 200V 0.2A
		DC 100V 0.4A	DC 100V 0.02A
	耐 電 圧	AC 1500V 1分間	AC 1500V 1分間
	絶縁抵抗	DC 500Vメガー100mΩ以上	DC 500Vメガー100mΩ以上
構　造	エレメント	ブルドン管	ブルドン管
	スイッチ形式	1個～2個で各々独立	1接点～2接点
	作　動	動作正確　信頼度は高い	動作正確であるが外部振動、動圧がある場所ではあまり好ましくない
特　徴	使用方法	計器の直接制御に適す	警報ブザー、警報ランプの作動
	接 断 差	スイッチの構造上接断差有	接断差はほとんど無
	調　整	目盛板前面から可能　設定目盛付 全範囲任意設定可能	目盛板前面から可能　設定目盛付 全範囲任意設定可能

コンタクト接点用端子BOX結線図

マイクロ接点用端子BOX結線図（φ100　1接点用）